厚真町『祭の創造』

”祭り”。昔は部落(集落)をあげての一大行事として人々に親しまれていた。

それが、時代の移り変わり（昭和40年頃）と共に、いつしか人々の心から離れ、現在の往年の賑わいを見ることができず、寂しいものになってしまった。厚真町に限ってのことではないが、こんな中にあって、有志らにより、かねてから、***”町民に親しまれ、楽しいお祭りの創造を”***と準備を進めて「田舎まつり準備委員会」が結成された。

町民相互の連帯・愛郷精神の高揚を図ると共に、**豊作祈願する**。さらに、町外の人々を誘い、厚真ダム周辺地域の風致や**都市と田舎の交流、町内特産物のＰＲ**をして、本町の優位性を宣伝するため、***”町民の手による、祭りの創造”***を目指した。

あつま田舎まつり

昭和48(1973)年６月24日「第１回あつま田舎まつり」が田・畑の作付けも一段落、快晴に恵まれた厚真ダム広場に町内外から約5,000人（車：1,000台超）の参集のもと盛会裡に開催された。

昭和49年6月22･23日(土・日)（この年から６月第３日曜日に開催日固定）

この回から前夜祭が取り入れられ、厚真市街地をパレード、小学生・ボーイスカウトの鼓笛隊演奏、青年・布陣・職場・団体・一般による踊り（厚真・田舎まつり音頭）は表町通りを千人を超えるパレードで祭り気分を高めた。翌日曜日の本祭は上幌内の厚真ダム広場周辺会場で行っていた。現在は、表町広場で開催している。

厚真音頭

昭和28(1953)年９月、更科源蔵作詞･西村貞次郎作曲によってすでに”厚真音頭”が完成し親しまれていたが、昭和39(1964)年にレコード化し新たに踊りを考え、町民体育祭でお披露目、大喝采を受けた。

田舎まつり音頭

第５回目(あつま田舎まつり)を迎える昭和52年、「５年目を記念して」『田舎まつり音頭』を作成しようと持ち上がり、募集することとなった。同年４月選考の結果、町内に住む『菊池武之さん』の作品が選ばれ、曲と振り付けが決まり、『田舎まつり音頭』が誕生した。

資料　厚真町史（昭和61年12月発行）
増補厚真町史（平成10年３月発行）

厚真町ＨＰから

H30年当日の田舎まつり音頭練習

H30年田舎まつり当日

参加の目的

・厚真町にある高校として、町（地域）の行事へ積極的に参加し、町民との関わりを深める。積極的に参加して踊っている厚高生を見ていただくことにより、高校生の元気さをアピールし、復興元年への勢いを町に示していきましょう。
・あつま田舎まつりへの参加を通して、クラス内の連帯感を深める。
・地域連携特例校・地域連携協力校の関係にある生徒会役員同士の交流を通して、両校の校友を深める。

祭は、地域の方々が、**『町民相互の連帯・愛郷精神の高揚を図ると共に、豊作祈願する』ことを願い、”*町民の手による、祭りの創造*”**
を目指して造り上げてきた厚真町最大の行事である。

この行事に、厚真町にある高校の**厚真高校の生徒として参加させていただき、町民とともに祭を楽しんで**
もらいたいものです。

参加するからには、踊るからには、
「楽しんで行事に参加!!　恥ずかしさを取り払って」
参加してもらいたいです。
皆さんが参加するために、踊り・着付けの指導・移動手段、現地での対応など、町民の方々の様々な協力があります。その方々の労に報いるためにも。

2018 年のポスター

踊りの指導は、あゆみ会の方々にお願いしています。
しっかりマスターしましょう!!!
当日は、素敵な笑顔で!!!!!

今年の会場は、町野球場で
学校のグラウンドは全面駐車場に

参加者
◎厚真高校（４０名）
　生徒１年生１５名＋２年生１８名＋
　生徒会３名＋教員４名
◎苫小牧東高校（１０名）
　生徒会９名＋教員１名
　合計　５０名